

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-168479

(P2005-168479A)

(43) 公開日 平成17年6月30日(2005.6.30)

(51) Int.Cl.⁷

A01G 1/06

F I

A01G 1/06

Z

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 4 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2003-436384 (P2003-436384)

(22) 出願日 平成15年12月8日 (2003.12.8)

(71) 出願人 000197126

青木 尚行

新潟県豊栄市長戸呂824の2番地

(72) 発明者 青木 恵美子

新潟県豊栄市長戸呂824の2番地

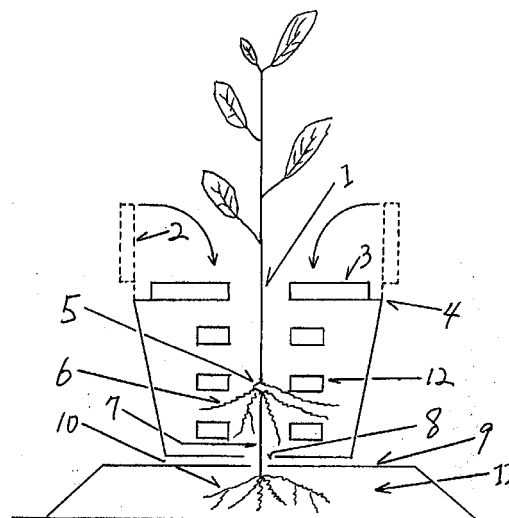
(54) 【発明の名称】 接木苗における接合部からの穂木根出根栽培法

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 接木苗栽培法に於ける穂木と台木の接合部からの穂木根の出根性を助け、この穂木根をも栽培に利用する。

【解決手段】 接木苗を定植した後、定植畝上面を境界線とすべく定植畝上面と接木苗接合部を立方体の容器で遮断した後、この容器に綿菓子状培土代替資材を充填し、接合部より穂木根を出根させ台木根と共に植物を栽培する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

接木苗栽培法において接木苗を定植畝に定植した後、定植畝上面を境界面とすべく定植畝上面と接木苗接合部を図 1 の様に略立方体の容器で遮断した後この容器に綿菓子状培土代替資材を充填し、該綿菓子状培土代替資材中に接合部より穂木根を出根させ台木根と共にその植物を栽培する方法。

【請求項 2】

請求項 1 の綿菓子状培土代替資材の代わりに土、砂、石、ピートモス類又はこれらの混合資材を施用しても良い事の特徴とする請求項 1 の栽培方法。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 の穂木根の出根資材に肥料、発根薬剤、農薬を含有せしめて施用しても良い事の特徴とする請求項 1 の栽培方法。

【請求項 4】

植物が野菜、果菜、花である事の特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の栽培方法。

【発明の詳細な説明】

【発明の細詳な説明】

[発明の属する技術分野]

【 0 0 0 1 】

本発明は主に綿菓子状培土代替資材を用いて接木苗の接合部から穂木根を発根させ、定植畝作土中の台木根と穂木根の 2 か所からの根で植物を育成する栽培方法に関する。

[従来技術]

【 0 0 0 2 】

従来の野菜、果菜、花等の畑作栽培は作土中の連作障害物質土壌病害等に負けずと健強に育成させる為これらに対して耐性を持つ台木苗に穂木を接いだ接木苗を定植する方法が一般的である。

[発明が解決しようとする課題]

【 0 0 0 3 】

この従来方法であると台木は土壌病害等に対して耐性を有していて健強に生育する反面、台木苗は果実品質が悪い、その為果実品質の良い穂木を接ぐのであるが台木素材の影響を受け易く、穂木本来の果実品質を 100% 出しきれないがしかし各種の病害等に対して高度抵抗性と高果実品質を合せ持つ品種の育成は遺伝子組替え技術をもちいなければ難しく、にもかかわらず遺伝子組替え作物は消費者に受け入れられ難たい為に本来の果実品質は得られないけれど仕方なく接木苗栽培法が主流に成っている本発明はこの様な「あちらを立てれば、こちらが立たず」を克服して両方の良さを引出しかかる課題を解消する事にある。

[課題を解決する為の手段]

【 0 0 0 4 】

前記課題を解消する為、本発明は接木苗栽培法には注意しなければならない鉄則が有りそれに従わなければなら接木苗を用いる意味がなくなる事を逆に利用する物で、即ち接木苗は接合部から穂木の自根が出根し易い為にこの接合部が畝作土に触れないように定植畝面より接合部を離して植えなければ成らない。もし仮に接合部から穂木の自根が出て畝作土に根付くと畝作土中の数々の土壌病害等に侵され台木根が生きているにもかかわらず大方は枯れるか生き残ってもたいした実を付ける事が出来ない、であるが接木苗の接合部からの出根能力は旺盛である。本発明は接合部に出根し易い環境を与え、この旺盛な出根能力を助け穂木本来の果実品質を損なわずかつ耐病性台木の特性を活かし接木苗の構造的特徴をさらに効率よく用いる為の手段、方法である。

[発明の実施の形態]

【 0 0 0 5 】

好適と考える本発明の実施の形態（発明をどのように実施するか）を説明する、平成 1

10

20

30

40

50

5 年 1 1 月 1 2 日提出、意匠登録願い（意願 2 0 0 3 - ）の育苗ポットを用いて接木苗を育成する。

〔実施例〕

【0 0 0 6】

本発明の具体的な実施例について説明すると図 1 は接合部かからの穂木根の出根資材に成型品綿菓子状培土代替資材を用いた場合であるが比較的容積の小さい育苗ポットを用いて本発明を行う時は成型品の綿菓子状培土代替資材よりロックファイバー粒状綿を用いた方が作業性、扱い易さに優るまた平成 1 5 年 1 1 月 1 8 日提出、意匠登録願いの育苗カップに平成 1 5 年 1 2 月 5 日提出、意匠登録願いの綿菓子状培地〔綿菓子状培土代替資材〕を収納してこれらを組して用いて育成した接苗の接合部から平成 1 5 年 1 1 月 1 2 日提出、意匠登録願いの育苗カップを用いて接合部から出根させた穂木根と台木根の 2 系統根群により栽培すれば、従来例の鉢上げ時に一回定植時に一回と 2 回にも及ぶ根痛みを受ける事なく、もともと強い台木根を根痛み皆無で定植する為“メガウルトラ”苗の健強性で栽培を始める事が出来る。また本発明では穂木根出根用育苗ポットを略四角錐立方体とし上部に薄肉厚ヒンジー可動折曲げ接合部を用いて綿菓子状培地の乾燥防止用蓋を設けたけれど、これは略円筒形立方体又は任意の多角形状立方体とする事も可能である。

10

〔発明の効果〕

【0 0 0 7】

本発明の栽培方法によれば従来は出しきれなかった接苗の穂木の果実品質を引き出す事が可能となり栽培面に於ける効果としては根量不足から起因する各種栄養素の吸収不足による障害を克服しかつこれら障害を回避する為に用いられている農薬等の使用を減らす事につながる。

20

【図面の簡単な説明】

【0 0 0 8】

【図 1】本発明を行う為の使用参考断面図

【符号の説明】

1 ... 穂木 2 ... 蓋 3 ... 蓋表面縁枠 4 ... 薄肉厚ヒンジー可動折曲げ接合部
5 ... 穂木と台木の接合部 6 ... 穂木根 7 ... 台木根 8 ... 台木茎通し穴
9 ... ビニールマルチ 1 0 ... 台木根 1 1 ... 定植畝 1 2 ... 通気孔

30

【図 1】

